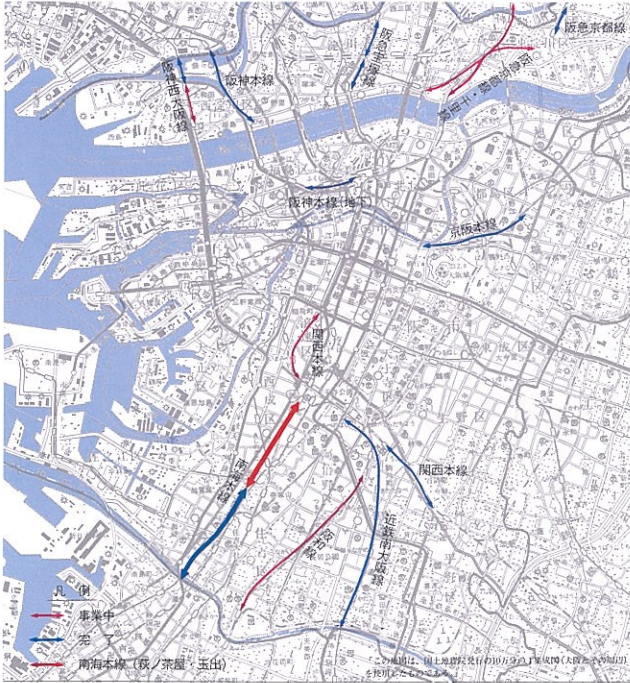


大阪市内の主な立体交差事業



この事業は、建設省所管の都市計画事業であり、「ガソリン税」、「自動車重量税」等の道路特定財源と、大阪市および南海電鉄の負担によって行われています。

南海本線(萩ノ茶屋・玉出間)
連続立体交差事業の高架化竣工



大 阪 市
 南海電気鉄道株式会社

事業のあらまし

大阪市では都市交通の安全と円滑化を図り都市の健全な発展に寄与するため、道路と鉄道との立体交差事業を実施しています。南海本線についても、難波～和歌山市間64.2kmのうち、大阪市内の難波～萩ノ茶屋間2.6kmは、既に昭和13年に高架化されていますが、残る大阪市内の萩ノ茶屋～大和川間5.1kmの連続立体交差化を実施してまいりました。

Ⅰ期工事として、玉出～大和川間3.4km（取付部を含む）を昭和47年10月に着工し昭和55年6月に高架化を完了しました。この区間には、都市計画道路柴台平野線・澁津長吉線・大和川北岸線などの13箇所の踏切がありましたが、全て立体交差化されました。この結果、幹線道路の交通渋滞が解消され、列車の運転保安も向上し、また地域分断解消にも大きく寄与することになりました。

Ⅱ期工事として、萩ノ茶屋～玉出間2.1kmを昭和58年1月に着工し平成7年11月に高架切替を完了しました。この区間には7箇所の踏切がありましたが、その中でも都市計画道路木津川平野線（松虫通）と交差する天下茶屋1号踏切は開かずの踏切といわれ、ラッシュ時には1時間に54分も踏切が遮断されているような状況となっていました。岸ノ里・玉出駅については、ホーム間の相互離隔が近接しており、列車の運行上のロスがあるため両駅を統合いたしました。天下茶屋付近では高架工事と地下鉄6号線（堺筋線）の天下茶屋駅工事を一体で施工を行いました。既に地下鉄は平成5年3月に開業いたしております。

なお、天下茶屋駅西側にあった天下茶屋工場は今回の事業に支障となるため河内長野市の千代田に移転しました。



都市計画道路木津川平野線と南海本線の立体交差（旧天下茶屋1号踏切道）

都市交通の流れをつくる 都市計画事業（連続立体交差事業）

社会繁栄の一翼を担って、今世紀、モータリゼーションの発展には、目ざましいものがありました。交通の時間短縮、輸送量の増大等、流通社会に大きな利便、恩恵を付与してきた訳であります。しかしながら、道路と鉄道が交差する踏切は、踏切事故、交通渋滞、騒音公害、大気汚染、地域分断など、都市交通や都市の生活環境において大きな問題を引き起こしており、その解決策が強く望まれているところです。

また、公共交通機関として大きな役目を持っている鉄道の運行も、今後さらに頻繁になって行くと考えられます。21世紀に向けて、都市に活力を与える「二つの大動脈」ともいえる。これら道路と鉄道のスムーズな流れを創り出すことは急務と考えられます。

このため、道路と鉄道の立体交差は都市交通にかかわる重要な事業となっています。

また、立体交差事業は、事故、渋滞などの解消だけではなく鉄道により分断されていた地域の一体化が可能となるなど、より活力ある都市交通と快適な都市環境の保全が実現できるため、都市計画事業として、その位置付は大きいと考えられます。



天下茶屋駅付近